

2016年5月12日

各位

会社名 株式会社日立物流  
 代表者名 執行役社長 中谷 康夫  
 (コード番号 9086、東証第1部)  
 問合せ先 経営戦略本部 広報部  
 部長 高岡 勲  
 (TEL: 03-5634-0357)

**新中期経営計画の策定に関するお知らせ**  
 ～「価値協創 2018-Value Creation2018～」～

当社はこのたび、2016年度から2018年度(自2016年4月1日至2019年3月31日)を対象とした新中期経営計画を策定しましたので、以下のとおり、お知らせいたします。

なお、当計画の説明会は、2015年度決算概要と合わせて2016年5月12日に開催いたします。  
 また、詳細な資料は説明会開催後、速やかに当社Webサイト「株主・投資家向け情報」の「決算説明資料」に掲載する予定です。(当社WebサイトのURL <http://www.hitachi-hb.co.jp/ir/>)

記

**【基本方針】**

日立物流グループは、経営理念である「広く未来をみつめ 人と自然を大切にし 良質なサービスを通じて 豊かな社会づくりに貢献します」のもと、高度化・多様化・広範化しているグローバルサプライチェーンにおいて、お客様・株主・従業員などあらゆるステークホルダーから、最も選ばれるソリューションプロバイダとなることをめざし、さまざまな『協創』を通じた課題の解決と『価値』の創出に取り組み、持続的な成長を実現してまいります。

新中期経営計画では、コア事業である「3PL事業の徹底強化とシェア拡大」「フォワーディング事業の拡大」「重量・機工事業の強化」を基本戦略とし、お客様やパートナーも含めた『協創』を活性化することで、新たな『価値』を創出するとともに、当社グループの「稼ぐ力」と「成長する力」、そしてこれらを「継承する力」を強化することにより、当社グループの企業価値の向上をめざします。

**【目標数値】**

	2015年度(実績)	2018年度(中計)
売上収益	6,804億円	8,000億円
国際売上収益構成比	37%	39%
調整後営業利益 <sup>※1</sup>	283億円	340億円
調整後営業利益率	4.2%	4.3%
EBIT <sup>※2</sup>	278億円	400億円
EBITマージン	4.1%	5.0%
ROE	7.5%	10.8%

※1. 「調整後営業利益」は、売上収益から売上原価ならびに販売費及び一般管理費の額を減算して算出した指標です。

当社は2016年度から経営の実態をより適切に表示するため、「調整後営業利益」を主要指標として公表いたします。

※2. 2016年度から事業全体の指標である「EBIT(受取利息及び支払利息調整後税引前当期利益)」も公表いたします。

## **[重点施策]**

### **1. コア事業である3PLの強化**

#### (1) 国内3PL事業の強化

- ①デリバリーソリューションの強化（「BtoB」事業から「BtoBtoC」事業への拡張）
- ②事業基盤のグループ会社へのシフト（トランスフォーメーション）完結による地域密着型事業展開
- ③スマートロジスティクス新技術導入による現場改善と差異化
- ④スタンダードモデル（汎用型3PL）の構築・導入による、産業別（メディカル・自動車・流通・生活品他）プラットフォーム事業の拡大

#### (2) 海外3PL事業の強化

- [アジア]トラックネットワーク拡充（タイ発域内クロスボーダー物流拡大他）による、既存アカウント事業拡大と新規グローバルアカウントの獲得
- [北米]NAFTA輸送ネットワーク拡充による自動車部品3PL事業の拡大とNon-Auto分野の拡大
- [欧州]成長市場をベースとしたインターモーダル・クロスボーダーによる西欧・東欧への事業拡大と欧州・中央アジアを結ぶ新規輸送事業の開拓
- [中国]国内トラック輸送事業の拡大と消費財（要冷品等）物流の拡大

### **2. フォワーディング事業の拡大**

#### (1) グローバル一体運営による収益力の向上とオフショア事業の強化

- ①新グローバルフォワーディング基幹システムによる統一した事業運営と見える化の実現
- ②オフショアルートでの絞り込みやキャリアの選択と集中による仕入競争力の強化
- ③3PL補完型フォワーディングサービスの展開

### **3. 重量・機工事業の強化**

電力・エネルギー、交通、産業・生産設備等の社会インフラ関連事業の国内外での受注拡大に向けた、プロジェクトカーゴネットワークの拡充とアセット導入も含めた自家リソースの強化

### **4. シームレスな総合物流サービスの実現にむけた協創・協業の推進**

### **5. 企業の社会的責任(CSR)の重視**

- (1)「安全は全てに優先する」「歩き回って安全をつくる-Safety Management by Walking Around-」をスローガンとした予防保全への取り組み推進
- (2)「物流品質」「情報セキュリティ」「AEO・輸出管理」「グリーンロジスティクス」を柱としたCSRの推進
- (3)新興国・地域における物流人財の育成や当該地域の雇用確保等、事業活動を通じた社会貢献活動の推進
- (4)当社グループのシンボルスポーツ（日立物流陸上部）の活動を通じた、グループ一体感醸成や従業員士気の高揚

以上